

# 診療科紹介 Vol.12

## 整形外科



人が生き生きとした生活を送るためには、立つ、歩く、物を持つなど自分の体を動かすことが必要です。体を動かすために必要な部分を運動器といい、骨、関節、靱帯、腱、神経、筋肉などが含まれます。整形外科とは、これらの運動器の病気(疾患)や怪我(外傷)を診療する科です。もっとわかりやすくいうと、頭と内臓以外はすべて整形外科の分野です。

3年に1回行われている国民生活基礎調査健康票の42必修項目のうち運動器関係は9項目を占めています(図1)。2013年国民生活基礎調査では、男女ともに腰痛、肩こり、手足の関節の痛みが上位5位までに入っています(図2)。また2010年の厚生労働省「国民生活基礎調査」によると、支援が必要となった主な原因の19.4%が「関節疾患」で、12.7%が「骨折・転倒」による

国民生活基礎調査健康票：自覚症状名

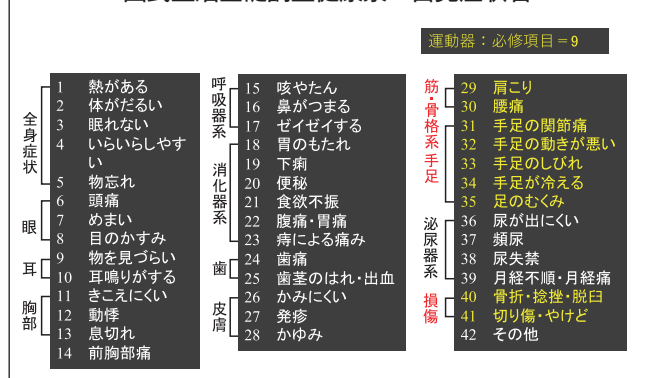


図1

2013年 国民生活基礎調査の概況  
性別にみた通院者率の上位5傷病

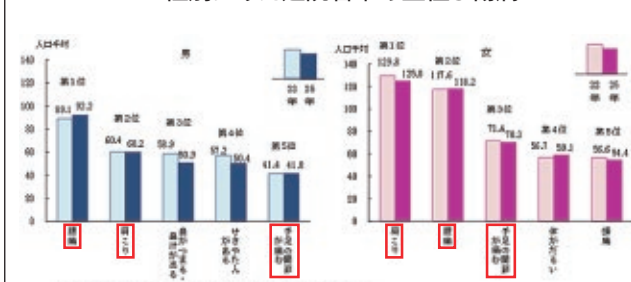


図2

ものです(図3)。また介護が必要となった主な原因の9.3%が「骨折・転倒」で7.4%が「関節疾患」によるものです(図4)。

私たち整形外科医師は、長崎大学から5人、佐賀大学から1人派遣され、1 teamとして医療を遂行し、日々研鑽しています。

当院の診療基盤である救急医療におきまして、ドクターヘリの活動により脊椎髄損傷、骨盤骨折を含む多発骨折などの救命救急を要する重度多発外傷が頻繁に搬入されるので、脊椎、骨盤や四肢骨折の創外固定および観血的固定も、各診療科と連携・協力し積極的に行っています。そのため、外傷全体で年間の手術数の半分を占めています。国立病院機構の中で骨・運動器の高度専門医療施設に認定されており、関節外科を中心とした診療も行っています。慢性疾患としては変形性関節症に対する人工関節手術は年間50例ほど行っている一方、膝・足関節に対しての関節温存手術である骨切り術を厳しく適応を評価して行っています(崎村Dr, 井上Dr.) (図5,6) 肩関節の腱板の鏡視下修復術も崎村Drが積極的に行っています(図7)。人工関節手術に関して、手術場には class100の無菌室が整備され、また病棟にも術後無菌室が用意しています。自己血で手術が受けられるシステムを設け、また採取した骨を冷凍保存し、患者本人あるいは他の必要とする患者に提供できる骨銀行システムを構築し、骨欠損の大きい症例や人工関節再置換術に使用出来ます。最近では人工関節手術患者でも80歳以上の患者が30%以上と増加し、高齢者でも歩行能力が向上しています。また関節外科の一部として足部の変形矯正手術も行っています。当院がリウマチ学会教育施設に認定されており、リウマチ患者の外科的治療等も行っています。手術数はtotalで年間約900例の手術を行っています。

最後に、患者さんにひとこと。もし、あなたが体のどこかが痛いとか、事故で怪我をしたとか、手足が痺れて思うように動かせないといった症状でお悩みでしたら、整形外科を受診してください。

われわれ整形外科では、患者さんの悩みを親身になってうかがい、生き生きとした生活を取り戻すお手伝いをします。

国民生活基礎調査：要介護・要支援となる原因

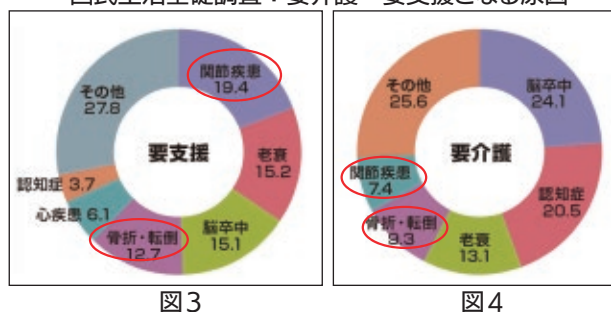


図3

図4



図5



図6



図7